

5. 北海道の気候の特色（東京都と比較しよう）

6. 北海道の歴史

1万年前	縄文文化成立
13世紀	縄文文化とオホーツク文化が融合してアイヌ文化が成立する。
14世紀	和人の移住がすすむ。
1457年	コシヤマインの戦い
1604年	松前藩成立
1669年	シヤクシャインの戦い
1869年	明治政府は蝦夷地を（ ）と呼び改めた。 開拓使（北海道を治めるための官庁）設置
1886年	（ ）設置
1899年	「北海道（ ）保護法」公布 農業のための土地を与え日本語や和人風の習慣による教育を行うことで アイヌの人々を和人に同化させるための法律
1922年	札幌、函館、小樽、室蘭、旭川、釧路に市制施行
1945年	函館、室蘭、釧路、根室、帯広に米軍により空襲艦砲射撃
1947年	自治体・北海道誕生
1950年	北海道開発庁発足
1997年	「北海道（ ）保護法」廃止、「アイヌ文化の振興並びにアイヌの 伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」制定

7. 下の表を完成させよう

	東京都	岩手県	福岡県	北海道
面積 (100㎟)	22	153	50	
人口 (万人)	1208	141	501	
人口密度 (人/㎟)	5524	92	1007	
産業				
一次	0.4	14	4	
二次	23	29	24	
三次	76.8	57	72	
一人当たりの県民所得 (万円)	437	267	266	
農業出荷額 (億円)	300	2726	2263	
工業生産額 (出荷額/億円)	117498	20583	8820	
年間商品販売額 (億円)	1787043	35258	220346	

※左表からよみとれる
ことを書きましよう。

(人口：人口密度は2004年、面積は2003年、産業別人口は2000年、一人当たりの県民所得は2000年度、その他は2002年、第53回日本統計年鑑、平成16年版全国市町村要覧ほかによる)

北海道ワークシート～北海道の概要～ 組 番 名前

1. 「厚別」の語源

2. 地名調べく地名の位置、地名の由来、人々の生活との関係等)

3. 地名調べからわかったこと

4. 北海道の略地図（地図帳を見ながらかきましよう）

45°					(1) 左地図に調べた地名を書きこみましよう。
44°					(2) 人口10万人以上の都市を調べ、左地図に書きこみましよう。
43°					(3) 左地図に日本海、太平洋、オホーツク海を書きこみましよう。
42°					(4) 左地図に北海道の主な平野、河川、湖沼、離島、半島、山地・山脈などを書きこみましよう。
	141°	143°	145°		

実践例2 歴史的分野

アイヌの人々がになう北東アジアの交易

～蝦夷錦とアイヌの交易～

第3章 武家政治と東アジア

2節 海に開かれた時代

(中世 室町時代)


1 ねらい・目標

アイヌの人々の歴史は、これまでもっぱら、近世後期以降の日本の中央政府や松前藩などとの関係、つまり和人との関係からみて特記すべき側面について説明されてきた。しかし近世前期以前のアイヌ民族には、中国に求心する北東アジアと日本とをつなげる役割があり、その中で独自の文化を形成していく。そのような歴史的な流れの中にアイヌ民族と琉球があり、中国、朝鮮、そして日本などと東アジアの中でお互いに関連し合いながら歴史を歩んできたことを認識する必要がある。その点を踏まえると、近現代のアジアがヨーロッパを中心とした世界に組み込まれていき、アジア世界と西洋のぶつかりあいが、アイヌ民族や琉球にも大きな影響を与える点が見えてくる。現在の学習指導要領で中世におけるアイヌ民族の歴史を学ぶ意義は、この点が大きいのではないかと考える。中世において、アイヌ民族の交易が北東アジア一帯のネットワークを形成していたことをとらえさせたい。

2 教材について

蝦夷錦は、教科書では江戸時代の松前藩とのかかわりで記載されている。しかし、近世のアイヌ民族は被支配的な要素が色濃く、アイヌ民族の交易の独自性は見えづらくなっていく。中世のアイヌの人々がすでに蝦夷錦を着用し、北方と日本を結ぶ役割を果たしていたことは、生徒にとっても新鮮な驚きであり、アイヌ民族の歴史の尊重につながるのではないかと考えるのである。また、古代・中世・近世と歴史を経る中で、和人とアイヌの人々との接点が奥州藤原氏・津軽十三湊・蝦夷地松前藩と変遷し、北上している点にも注目したい。アイヌの人々は蝦夷地だけでなく、東北地方にも住んでいた

時	学 習 目 標	子どもの活動・思考の流れ	学習事項 教師のかかわり
1 南北朝の動乱	室町幕府を支えた基盤を組織面・財政面からとらえ、基盤の弱さが後の戦国時代の動乱につながったことに気付く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">足利尊氏は、なぜ鎌倉ではなく、京都に幕府を開いたのだろうか。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">足利尊氏は征夷大將軍の地位を守るために、京都の北朝を南朝勢力から守る必要があったんだ。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・建武の新政との関係 ・足利尊氏の出した半済令のねらい ・室町幕府と鎌倉幕府の組織の違い

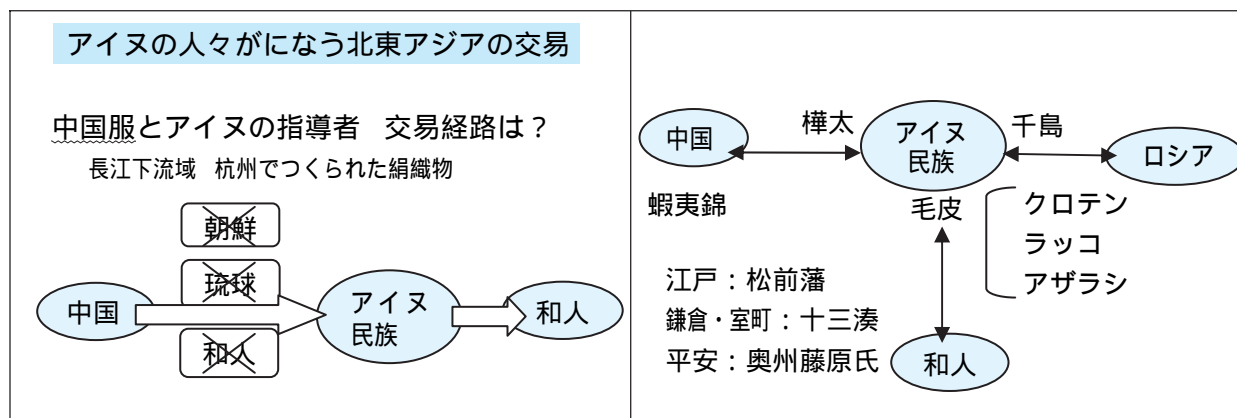
<p>2 義満と貿易</p>	<p>朝貢の形をとってまでも勘合貿易をした理由は、幕府に莫大な利益がもたらされたためであること、輸入された中国貨幣が日本の経済に大きな影響を与えたことをとらえる。</p>	<p>足利義満は、なぜ朝貢貿易である勘合貿易を積極的に行ったのだろうか</p> <p>貿易の利益とともに、義満は明の皇帝から「日本国王」と認められることで、天皇よりも上であると国内での権威を示した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・倭寇と勘合貿易の関係 ・勘合貿易は朝貢貿易であったこと ・中国の貨幣の日本経済への影響 ・義満の野望
<p>3 琉球王国の交易</p>	<p>琉球王国を通じた交易は、東南アジア一帯のネットワークの一部を形成したことをとらえる。</p>	<p>なぜ、小さな琉球王国が他国から征服されずに450年間も繁栄することができたのだろうか。</p> <p>琉球は中国と朝貢関係を保ちながら、中継ぎ貿易を行いアジアの架け橋となっていたんだ！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・琉球の繁栄 ・琉球を訪れる国々 ・中国との関係 ・ポルトガル商人の進出と琉球船の衰退
<p>4 本時 アイヌ民族と蝦夷錦</p>	<p>中世に、アイヌの人々の交易が北東アジア一帯のネットワークを形成していたことをとらえる。</p> 	<p>なぜ中国の服を、アイヌの指導者が着ているのだろうか。 中国から蝦夷地までの交易経路を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌの人々が中国と朝貢貿易を行っていたのか ・アイヌ民族は統一国家だったのか ・北海道から中国までどうやって行くのか ・アイヌの人々は何を輸出していたのか <p>なぜ蝦夷錦と呼ばれるのだろうか。</p> <p>アイヌの人々は北東アジアから中国と日本をそして日本とロシアをつないでいたんだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平安時代の藤原氏には奥州藤原氏からアザラシの皮が ・室町時代の足利義量には十三湊の安藤（安東）氏からラッコの皮30枚が ・秀吉にはラッコの皮、家康には蝦夷錦が松前の蛸崎氏から届いていたんだ <p>中世、アイヌの人々は日本と北方を結ぶ役割を担っていたんだ！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・蝦夷錦を提示 ・蝦夷錦を着たアイヌの指導者を提示 ・グループで考えさせる ・前時までの朝貢貿易を確認する。 ・蝦夷錦の名前を提示 ・交易経路を提示 ・各時代の為政者が北方からの品々を入手していた
<p>5 戦国時代へ</p>	<p>応仁の乱後、各地に戦乱が広がるなかで、地方の武士の力が強くなったことをとらえる</p>	<p>守護と守護大名、守護大名と戦国大名はどう違うのだろうか？</p> <p>守護を任命していた室町幕府の力が衰え、下剋上によって戦国大名が登場するようになるんだ！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・応仁の乱の状況 ・力を落としした者 ・力を伸ばした者

4 本時の目標と展開

中世、アイヌの人々の交易が東北アジア一帯のネットワークを形成し、日本と北方を結ぶ役割を担っていたことをとらえる。

	学習内容	生徒の活動	教師の働きかけ・留意点	評価に関して
導入	琉球王国と東アジア	・琉球は中継貿易と中国との朝貢貿易によって王国を維持	・前時の確認（日本と南方を結んでいたことを強調） ・蝦夷錦を提示	・知識理解
	中国服とアイヌの人々のかかわり	・龍の絵柄から中国を予想する。	中国の杭州で作られた高級な絹織物であることを紹介する。 ・蝦夷錦を着たアイヌの人々を提示 琉球同様、蝦夷地も日本の勢力範囲外	・関心意欲
展開	中国服の入手経路を考える	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">どこの国の服だろう？</div>		・思考判断 ・技能表現
	蝦夷錦の入手経路	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">なぜ中国の服をアイヌの指導者が着ているのだろうか？ 交易の経路を考えよう？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで考え、発表する。 ・中国と朝貢貿易を行っていたのでは ・日本の輸入品がアイヌの人々の手に渡ったのでは 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見と質問をとる。 ・中国の冊封体制(朝貢貿易)を確認する ・蝦夷錦の名前を提示 江戸や京都でもてはやされていた 	・思考判断
	アイヌの人々の交易品	<ul style="list-style-type: none"> ・日明貿易では、入っていない ・アイヌの人々が他の国や民族と交易を行っていた <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">アイヌの人々は、樺太方面から中国と日本を結んでいたんだ</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書で入手経路を確認 ・中世でも基本的に入手経路は同じだったこと、徳川家康にも蝦夷錦が渡ったことを説明する。 	・知識理解
	アイヌの人々の交易範囲	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">アイヌの人々が交易したのは何の毛皮だろうか。</div>		
まとめ	日本の窓口	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">アイヌの人々は千島方面でロシアとも交易があったんだ。</div>	<ul style="list-style-type: none"> クロテン：樺太・北海道 アザラシ：北海道 ラッコ：千島列島 に生息していることを説明 ラッコは秀吉や足利義量に、アザラシは平安時代に藤原氏に届いたことを説明 江戸：松前藩 鎌倉・室町：十三湊 平安：奥州藤原氏がアイヌ民族との接点だったことを板書に整理 	・理解
	アイヌ民族の交易の役割	授業の感想を記入する。		

板書



留意点

学習指導要領では、中世の内容に関して、「武士が台頭し武家政権が成立したこととその後の武家社会の展開を鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、応仁の乱後の社会的な変動を通して理解させるとともに、元寇、日明貿易、琉球の国際的な役割など、その間の東アジア世界とのかかわりに気付かせる。」と書かれている。また近世の内容の取扱いの中では、「鎖国下の対外関係について、北方との交易をしていたアイヌについても着目させるようにすること。」と書かれているが、前述のねらいのとおり、中世でのアイヌ民族の役割に着目することで、その独自性を強調する。

また、細かい史実にはこだわらず、東アジアの関係を大きく概観するようにする。

資料・参考文献等

- 『アイヌ民族：歴史と現在 -未来を共に生きるために-』
- 『アイヌ民族に関する指導資料』 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
- 『アイヌの歴史と文化 I』 榎森進 編
- 『アイヌ民族と日本人』 菊池勇夫

〈毛皮と蝦夷錦に関する記述〉

- ・ 出羽国における摂関家領大曾祢庄の年貢として、水豹（アザラシ）5枚を京進すべきことを、左大臣藤原頼長に対して、藤原基衡が申し出ている。
- ・ 1423年、安藤陸奥守が、室町幕府の将軍に就任した足利義量に祝儀としてラッコ皮30枚を贈り、将軍家が礼状を与えた礼状の控えが幕府側に書き留められている。
- ・ 1593年、松前藩の初代藩主となる蠣崎(松前)慶広は、肥前名護屋で朝鮮を侵略しようとしている豊臣秀吉にラッコ皮3枚を献上した。
- ・ 1593年、蠣崎慶広は、肥前名護屋で徳川家康に拝謁したが、身につけていた「唐衣」(蝦夷錦)を家康から褒められると、すぐさまこれを脱いで献上したと伝えられている。

『アイヌの歴史と文化 I』より

実践例3 公民的分野

「法律のできるまで」

第3章 現代の民主政治と社会

2 国の政治のしくみ

2 国会のはたらき

1 ねらい・目標

- ・法律が制定されるまでの過程を、アイヌ文化振興法を通して理解する。
- ・法律の実現に携わった人々の思いや願いを知る。

2 教材について

本時は「国会のはたらき」という単元の学習である。国会についての学習は、本時の内容（法律の制定過程）以外にも、予算の審議議決・内閣総理大臣の指名などがある。これらの内容は、前時に網羅的に学習することとし、本時は「法律が制定されるまでの過程を、アイヌ文化振興法を通して理解する」ことに重点を置きたい。

1997年に、アイヌ文化振興法がされ、北海道旧土人保護法が廃止されてから10年が経過した。しかし、現実には予算的な問題などがあり、アイヌ民族に対する民族施策が十分に実施されているとは言えない。

また、アイヌ文化振興法には「先住権」（註釈※1）といった「さらに新しい人権」が欠如しているという指摘もあり、「法律の制定とそのあとに残る課題」という発展的な内容にも触れる。

ただし、「先住権」は教科書巻末の解説ページで登場するものの、生徒にとっては難解な用語であるため、できるだけ平易な説明を心がけたい。立法権の学習の次には行政権がくるため、制定された法律が実際に社会の中で生かされていくには、課題もあるのだということを理解させ、次時の学習への意欲を高める。

公民的分野の学習は、「ひと」や「思い」が置き去りにされがちな側面もある。本時では、当時の新聞記事（註釈※2）なども活用しながら、アイヌ文化振興法の制定に尽力した萱野茂氏や関係者の思いも盛り込み、法律に関する学習を展開したい。

※1 先住権とは、①土地、②資源、③伝統的文化、④政治的自決権からなる。

※2 当時の新聞記事は、各新聞社が発行する縮刷版を参照しました。縮刷版は市立図書館等で閲覧が可能です。

3 単元構造

- (1) 議会制民主主義と国会
- (2) 法律のできるまで（本時）
- (3) 行政と内閣
- (4) 現代の行政
- (5) 法を守る裁判所
- (6) 裁判の種類と人権
- (7) 三権の抑制と均衡

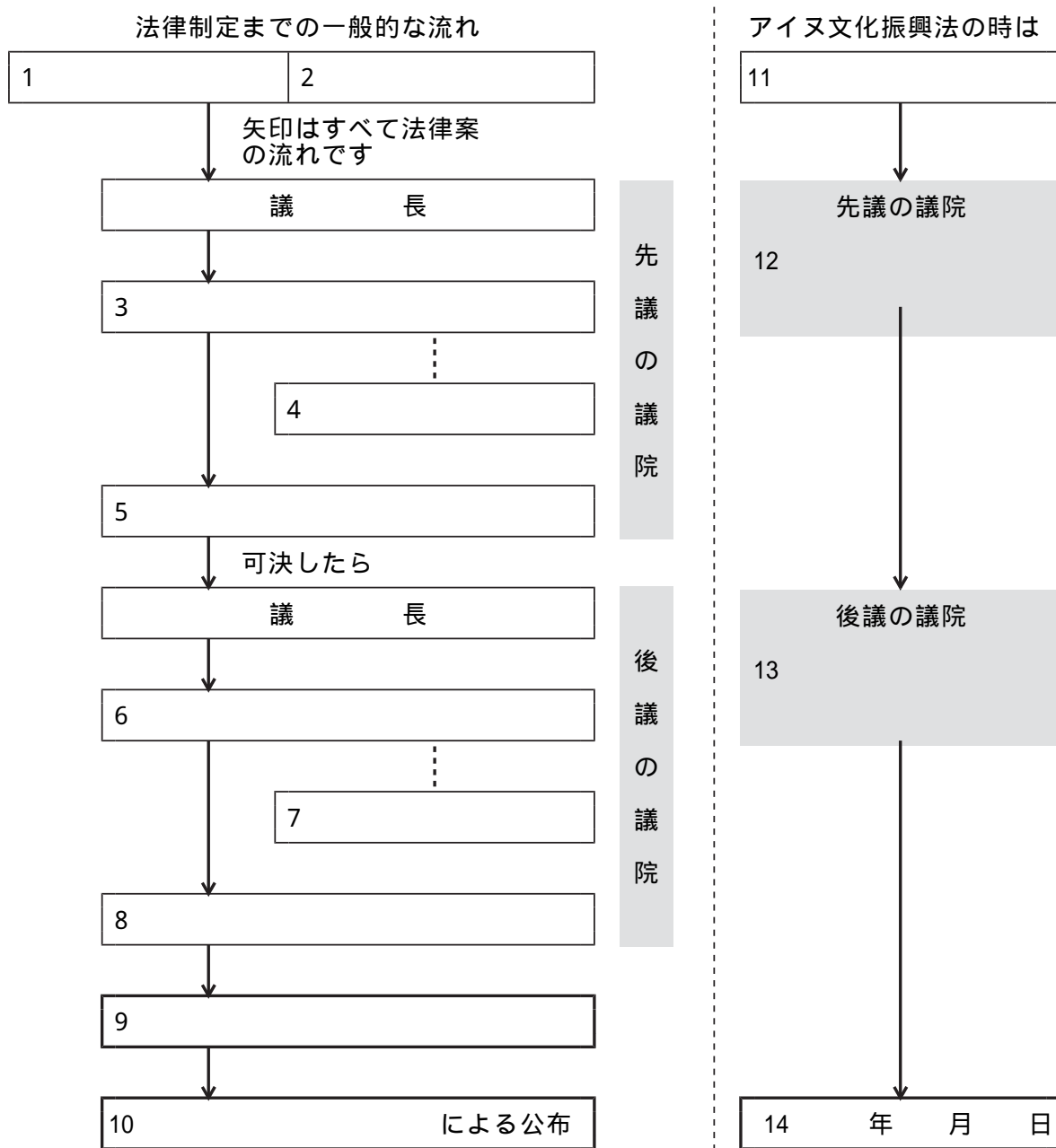
4 本時の学習展開

学習内容・生徒の活動	教師の働きかけ・留意点	評価に関して
<p>●萱野茂氏について</p> <p>■スクリーンの写真を見て考える。 ・教科書や資料集から写真を探す。 ・資料集と教師の説明から略歴を知り、以前に学習したアイヌ文化振興法に携わった人物であることを知る。</p> <p>・多くの人々の尽力でアイヌ文化振興法ができたことを知る。</p>	<p>■萱野茂氏の写真を提示する。</p> <p>・この方は誰でしょうか？ ・この方はどのようなことをした人でしょうか？</p> <p>■アイヌ文化振興法が、萱野茂氏をはじめ多くの人々のかわりにより、全会一致で可決成立したことを説明する。</p>	<p>・関心意欲</p>
<p>アイヌ文化振興法を通して、法律ができるまでの過程を調べてみよう</p>		
<p>●法律ができるまで</p> <p>■ワークシートをまとめる。 ・作業を通して一般的な法律の制定過程について理解する。 ・ワークシートの解答を発表する。</p> <p>●アイヌ文化振興法の制定</p> <p>■アイヌ文化振興法が制定された日の新聞記事を読む。</p>	<p>■ワークシートを配付する。</p> <p>■法律の制定にかかわる基本用語を補足説明する。</p> <p>■新聞記事を配付する。</p> <p>・新聞の一面を飾った大きな出来事だったことにも注目させる。</p>	<p>・技能・表現</p>
<p>アイヌ文化振興法の制定にはどのような成果と課題があるのだろうか</p>		
<p>●アイヌ文化振興法・成果と課題</p> <p>■アイヌ文化振興法の制定に携わった人々の思いを知る。</p> <p>・多くの年月が費やされた。 ・関係者の苦労も多かった。 ・制定の喜びも大きかった。 ・法律を必要とする人々の思いが国を動かした。</p>	<p>■制定が実現したときの関係者のコメントを紹介しながら成果を確認する。</p> <p>■「アイヌ民族に関する法律」(案)について紹介する。 1 基本的人権 2 参政権 3 教育・文化 4 農業漁業林業商工業等 5 民族自立化基金 6 審議機関</p>	<p>・思考・判断</p>
<p>アイヌ文化振興法には、アイヌ民族への財政的支援、先住権や民族自決権など未解決の課題が数多く残されている</p>		
<p>■アイヌ文化振興法には多くの課題が指摘されていることにも注目する。</p> <p>●本時のまとめ</p> <p>■ワークシートに自分の考えや感想をまとめる。</p>	<p>■当時の新聞記事を使いながら、今後の課題についても確認する。 ■教科書巻末の説明にも注目させる。</p> <p>■本時のまとめをさせる。</p>	<p>・思考・判断</p> <p>・関心意欲</p>

5 補助資料 (1) ワークシート

法律のできるまで

【作業1】教科書や資料集を参考にして、空欄を埋めましょう。



【作業2】授業を通してあなたが考えたことをまとめましょう。

3年 組 番 氏名

(2) 当時の新聞記事の例 (北海道新聞 1997年〈平成9年〉5月8日朝刊)

アイヌ新法成立

衆院全会一致

わが国初の民族法

「旧土人保護」を廃止

衆院は八日の本会議で、アイヌ民族の文化振興と伝統を尊重する知識の普及を主目的とする「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」(アイヌ新法)案を原案通り全会一致で可決、同法案は成立した。十四日、位置付けた日本初の民族法ができた。同日記者会見で、

「先住性」は付帯決議で

衆院本会議では冒頭に同先住性を盛り込んだ付帯決議が上程され、伊藤忠治審議長とともに報告、ただ内閣委員長が七日に行った採決は移った。審議結果を、アイヌ民族の先住性は道ワタリ協会が

文化振興

7月にも財団発足

国、道年度内に計画策定

アイヌ新法の成立を受け、道開発庁と文部省は道や道ワタリ協会など連携しながらアイヌ文化の振興など一連の施策を進める準備に入る。実質的に施策推進の母体となる財団法人は、七月にも発足の運び。一方、文化振興に向けて首相が定める基本方針や、それに基づく道の基本計画は、年度内に策定される見込みだ。

新法が全国で二つと規定する指定法人は、アイヌ民族の居住者が最も多い北海道に設立される見込み。すでに設立準備が進んでいる財団法人「アイヌ文化振興・研究推進機構」(本部・札幌)が新法施行後、指定を受けよう。同機構は国と道から補助金を受けながら、アイヌ語指導者の養成、ラジオ講座の開設、口伝承者の育成

事業などの活動を目指している。四月十七日には民族関係者を含めた設立発起人会も開かれたが、理事構成などを決め、アイヌ民族の意向を反映させる仕組みをつくり上げてゆくかが注目されている。また、新法施行後、総理府が中心となってアイヌ文化振興の基本方針をつくり

これを受けて道は、政令の指定を得た上でより具体的な基本計画を定める。いずれもアイヌ文化振興のための施策や調査研究活動の方向性を規定するものとなる見込み。国も道も、できるだけ策定作業を急ぐ考えだが、法律に基づいて具体的な施策を一九九八年度から進めてゆくため、本年度内の策定を目指すといわれる。

アイヌ民族を和にも冒険で公布され、三月以内に施行される。アイヌ民族を和にも冒険で公布され、三月以内に施行される。アイヌ民族を和にも冒険で公布され、三月以内に施行される。アイヌ民族を和にも冒険で公布され、三月以内に施行される。

「先住性」は、同法を審議した衆参両院内閣委員会の審議で政府が認めたものの、条文には盛り込まれなかった。政府は新法公布後、施行日を政令で定めるが「可能な限り早くしたい」(道開

発)と、公布から三月月となる八月中旬を待たずに、早ければ七月中の施行を目指す考え。首相に謝意 道ワタリ協会理事長 「アイヌ新法」成立に先立ち、北海道ワタリ協会の笹村二期理事長は八日午前、首相官邸に橋本竜太郎首相を訪れ、新法成立の謝意を表した。

笹村理事長は「長年かかって国内初の民族法が成立したと感謝の意を伝えた。また、首相が先月、歴代首相で初めてアイヌ民族の先住性を認めたことに対し、「仲間は大変喜んでい」と述べた。これに対し首相は「成立まで大変時間がかかり懸かった」とした上で、「新法成立は第一歩であり、今後あらゆる面で相対する」とこたえた。

音楽科

1 教育課程上の位置付け

アイヌ民族の文化を音楽科として扱う時、様々な歌や踊り、楽器を取り扱うことが考えられる。これらを中学校学習指導要領の音楽科の内容に位置付けるとすると、鑑賞領域において取り扱うことがふさわしいと思われる。そこで、第1学年での指導事例をもとに、学習指導要領における指導内容を確認する。

◇ 鑑賞における学習指導要領の指導内容

【B鑑賞ア】

声や楽器の音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い、形式などの働きとそれらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想を感じ取って聴くこと

【B鑑賞イ】

速度や強弱の働き及びそれらによって生み出される曲想を変化を感じ取って聴くこと

【B鑑賞ウ】

わが国の音楽および世界の諸民族の音楽における楽器の音色や奏法と歌唱表現の特徴から音楽の多様性を感じ取って聴くこと

以上の指導内容について、特に【鑑賞ウ】「わが国の音楽および世界の諸民族における楽器の音色や奏法と歌唱表現の特徴」における「わが国の音楽」として扱い、「世界の諸民族の音楽」へのつながりを意識した指導が考えられる。

さらに学習指導要領には教材の扱いについて以下のように記述されている。

「鑑賞教材は、わが国及び世界の古典から現代までの作品、郷土の伝統音楽及び世界の諸民族の音楽を取り扱う」

第1学年における「わが国の音楽」は、主に箏や尺八などの伝統楽器や、郷土の伝統音楽（祭りやお囃子）で使用される楽器を教材として扱う。まず、楽器の構造を知ったり、実際に自分たちで演奏を体験したりすることにより生徒の興味・関心を喚起する。そして、その楽器のもつ音色や奏法の特徴を知覚し音楽を鑑賞することによって、より音楽への親しみや多様性を感じ取る鑑賞へつなげるような指導が考えられる。

そこで本実践においては「郷土の伝統音楽」の視点から、アイヌの人々が使っている楽器を扱うことができる考えた。アイヌ民族の楽器については、五弦琴（トンコリ）、口琴（ムックリ）、胡桃笛（ネシコニカレフ）、太鼓（ターク）、草笛（チレカレツ）などがある。そのなかでも「トンコリ」は、アイヌ民族独自の楽器といわれている。本実践は、そのうちの「トンコリ」について注目することとした。さらに、同じ日本の反対側、南の琉球の人々が使っている三線（サンシン）を一緒に扱い、その楽器の仕組みや音色の特徴、楽器が奏でる音楽の特徴について取り上げるものとする。この2つの楽器を扱うことによって、このあとの世界の諸民族の楽器や、第3学年で学習する歌舞伎（長唄）で使用される三味線へのつながりを意識することをねらっている。

〈トンコリについて〉

トンコリは樺太アイヌに伝わるアイヌ民族の弦楽器である。古くはシャーマンの祭具としても使われていた。原材料はエゾマツやオンコ（イチイ）を使い、弦はもともとシカのアキレス腱やイラクサを細かくよって作られていたが、昭和30年代にはすでに三味線の糸に取って代わられていた。

長さ1メートルくらい、幅15センチくらいで5本の弦があり、てっぺんから丸い「顔」、突き出た糸巻きは「耳」、ほかに「首」「胸」「肩」と各部に人体の名称がついている。胴が細長く平べったいため、内部で音が増幅されにくいのが、その構造こそがトンコリの音色に不思議な倍音成分を加えている。その内部には、小さなガラスや石の玉が1～2個入れられ、トンコリの魂とされている。18世紀ごろに現在の形が確立し、樺太や北海道の宗谷地方で盛んに奏でられた。しかし戦後、高齢の演奏家が相次いでこの世を去ると、博物館に埋もれた存在になったが、1980年代から、楽器を復元し演奏を伝える動きが出てきた。

弾くときは、楽器を立てかけ、胸に抱くようにして両手の指で弦をはじく。楽器を構える姿は子どもを抱く様子を思わせる。5本の弦はすべて開放弦で、ギターのようにフレットを押さえて音程を変化させることができない。演奏者は5本の弦が発する5色の音をリズムによって刻み、奏でるほかない。弦楽器でありながら、リズムをいかにして生み出すかが演奏上の重要なポイントになってくる。

トンコリの伝統曲は、最大5つの音から構成されるきわめて単純なフレーズの繰り返しである。琴やハープのように柔らかい音がし、風の音や川のせせらぎ、獣が歩き回る音、鳥の鳴き声などを一定のリズムを繰り返して表現しているものが多い。



【トンコリ】
（サップロピリカコタン）

2 指導実践例（鑑賞）

(1) 題材名 「日本の伝統楽器に親しもう」

(2) 題材について

本題材は、日本の伝統音楽の中でも、特に楽器の響きについて注目し、その音楽を鑑賞することによって、日本の伝統音楽の特徴を感じ取ることをねらいとした。尺八や箏については、ゲストティーチャーを招き、実際の演奏を生徒の目の前で見ることによって、楽器をより身近なものにしようと考えた。また、トンコリや三線については、できるだけ楽器の実物を見せながら、楽器の構造や音色の特徴などを、他の楽器との比較で理解させ、それぞれの人々の暮らしについて触れさせたい。その上で、日本の伝統楽器に親しませ、その音楽のよさ、面白さを味わって聴かせたい。

(3) 題材の目標

- ・日本の伝統楽器の音色の特徴を感じ取り、その音楽を歴史や人々の生活とかかわらせて、味わって聴く。

(4) 本時の展開

	◇学習内容 ・生徒の活動	・教師の働きかけ ●留意点	評価に関して
導入	<p>◇ 楽器の構造を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽器の周りに集まり楽器を観察し、構造上の特徴をワークシートにまとめる。 楽器の周りに集まって、実際にトンコリ・三線を体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> 二つの楽器を提示し、どこの楽器かを考えさせる。 琉球の三線との楽器の構造での共通点や相違点を考えさせる。 	
展開	<p>◇ 楽器の構造と民族の生活とかかわらせて、楽器の音色の特徴を感じ取る</p> <ul style="list-style-type: none"> 演奏を聴きながら、気付いたことをメモする。 聞き取ったことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの日本の伝統楽器の演奏と比較しながら聴かせる。 両方の音楽を聴き、共通点や相違点を感じ取らせる。 音楽の要素として、音色や旋律の特徴に注目させる。 	<p>関</p> <p>トンコリや三線の特徴的な表現に関心を持っている。 【ワークシート、観察評価】</p> <p>感</p> <p>トンコリや三線の特徴的な奏法による音の変化を感じ取ることができる。 【ワークシート】</p>
	<p>＜トンコリ＞ 同じ旋律の繰り返し 引く弦によって音の強さが違う</p> <p>＜三線＞ 同じようなリズムの繰り返し 弦の音が強い 速度が速い など</p>		
	<p>同じ弦楽器なのに、響きや音楽の特徴が違うのはなぜか</p> <ul style="list-style-type: none"> トンコリの材質と三線の材質の違いに気付き、当時の人々の生活を知る。 		
開	<p>＜トンコリ（アイヌの人々）＞ 動物や鳥の鳴き声の模写の即興的演奏が多い エゾマツやオンコ、弦はイラクサなどを使用</p> <p>＜三線（琉球の人々）＞ 踊りとともに演奏されることが多い 木製の胴に蛇の皮 弦は絹</p> <p>人々の生活と密接にかかわっている</p>		
まとめ	<p>◇ 民族の文化や人々の生活と関わらせて、それぞれの音楽を味わって鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに自分の感じたことを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの人々の生活と音楽や楽器がどのように関わっていたかを音楽的要素を意識しながら記入させる。 	<p>鑑</p> <p>トンコリや三線の響きの特徴を味わって鑑賞している。 【ワークシートの批の批評文】</p>

(5) 使用ワークシート

1年 組 番

1年生

ハ
ー
モ
ニ
ー

第 号 月 日

◎ 2つの楽器を比較しよう

	ト ン コ リ ()	三 線 ()
構 造		
音 色		
音 楽		

◎ 2つの楽器による音楽を聴いて、音楽や楽器の音色・仕組みが、人々の生活とどのようにかかわっていたか、自分の考えを書きましょう。

資料・参考文献等

『サッポロピリカコタン』 www.welcome.city.sapporo.jp/pirika/

『アイヌ伝統音楽』 日本放送協会

『アイヌ絵を聴く 変容の民族音楽誌』 谷本一之 著

『アイヌ絵を聴く ～描かれたアイヌの歌と踊り～』(CD) 谷本一之 編・著

美術科

1 教育課程上の位置付け

美術科の学習としてアイヌ民族の文化を取り上げる際、「アイヌ文様」について取り扱うことが考えられる。

アイヌ文様はアイヌ文化を代表するものの一つであり、その文様に込められたアイヌ民族の自然観や信仰などを理解させたり、美しさやよさを感じとらせたりすることにより、北の大地に根付いた豊かな精神文化の象徴であることに気付かせることができる。

教育課程上に位置付ける場合、アイヌの人たちの文化遺産であり北海道遺産でもあるこの「アイヌ文様」を鑑賞領域で取扱うことができる。また、そこで取扱った文様を切り絵で表現したり、デザイン構成の学習や工芸作品に活用したりするなど、表現活動へと発展させることもできる。

2・3年 鑑賞（実践例に該当する部分を抜粋）

鑑賞の授業のねらいは、自然、美術作品や文化遺産などに親しみ、鑑賞の基礎的な能力や態度を育てることにある。

[第2学年及び第3学年]

B鑑賞

ウ 日本及び諸外国の美術の文化遺産を鑑賞し、表現の相違と共通性に気付き、それぞれのよさや美しさ、創造力の豊かさなどを味わい、文化遺産を尊重するとともに、美術を通じた国際理解を深めること。

この事項では、日本を含むそれぞれの国や民族の英知と情熱の結晶である文化遺産に目を向け、それらのよさや美しさ、創った人々の精神と知恵を鑑賞することによって、異なった文化への関心を高め、美術を通しての国際理解を深め、文化を尊重する態度を育成することをねらいにしている。

日本国内の文化遺産を取り扱う場合、東日本と西日本の美術文化の違いやアイヌや琉球の文化をはじめ各地域文化に見る造形などの独自性と特質や日本文化の多様性について着目させることも大切になる。

2 指導実践例（鑑賞）

(1) 題材名 「アイヌ文様に込められた思い」（鑑賞 2学年） 1時間

(2) 題材について

「文様」は、ただの装飾パターンではなく、深く鑑賞していくと、その文様を生み出した国、地域、民族の生活や文化が映し出されたものであることがわかる。風土や生活様式、その土地特有の動植物などをモチーフに構成されている。また、同じモチーフを用いても表現方法が異なったり、その構成の中にその民族独特の考えや願い、祈りなどが込められているものもあり、大変奥深いものである。

この題材では、導入で世界のいくつかの伝統文様を鑑賞させ、文様に対する興味や関心をもたせた後、「アイヌ文様」についての鑑賞を深めていく流れになっている。アイヌ文様について理解することだけに終わらずに、その文様が生活の中でどのように使われているか、今日までどのようにして伝承されてきたかなど、文様の背景にもせまりたい。

(3) 題材の目標

- ・世界の伝統文様の特徴に気付き、文様について興味・関心をもつ。(関心・意欲・態度)
- ・世界の伝統文様には、それぞれ独特の精神的な意味合いをもつ「文様」があることを理解する。(鑑賞の能力)
- ・アイヌ文様に込められた意味や願いや祈りなどを理解し、その文様の美しさやよさを味わう。(鑑賞の能力)

(4) 本時の展開

	学習内容・生徒の活動	教師の働きかけ・留意点	評価に関して
導 入	<p>◇世界の伝統文様</p> <p style="text-align: center;">世界の国・地域の伝統文様を知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文様と国・地域の組み合わせを考える。 ・文様を構成している要素を見つけ出す。(植物、動物、線や図形 等) ・それぞれの伝統文様の特徴を感じ取る。 	<p style="text-align: center;">ワークシート1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の伝統文様をいくつか提示する。 <ul style="list-style-type: none"> ①どこの国・地域だろう。 ②文様の特徴は何だろう。 ・それぞれの文様に含まれる精神的意味合いを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 関心・意欲・態度 ・発表 ・ワークシート記述
	<p>◇アイヌ文様</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこの文様か考える。 <p style="text-align: center;">アイヌ文様を探ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ文様を構成している要素を見つけ出す。(渦巻き、棘、線対称、繰り返し 等) ・アイヌの人々が雄大な北の自然と密接なかかわりをもって生活を営んできたことに気付く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>アイヌ文様の基本パターンは「モレウ」であり、この渦巻きのつながりや配置で多様な文様がつくられている。「アイウシ」等の他のパターンは、文様の分析や研究の中で後から呼び名がついたり、意味合いが考えられたものが多い。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・制作技術とともに、文様自体が文化遺産であることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ文様を提示する。 <p style="text-align: center;">ワークシート2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ文様の特徴に気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ①文様の基本 <ul style="list-style-type: none"> ・「渦巻き(モレウ)」 <ul style="list-style-type: none"> *モ=静かに レウ=曲がる 川の流れの渦や木々に絡まる葡萄蔓 ・「棘のある形(アイウシ)」 <ul style="list-style-type: none"> 春の野にすうっと伸びた棘のあるタラの木 *これらを組み合わせ、連続した線(道・ル)でむすんでいく。 ②文様の意味(=魔除け) <ul style="list-style-type: none"> *袖や襟からの侵入を防ぐ ③技術の伝達(親→子) 	<ul style="list-style-type: none"> 関心・意欲・態度 ・発表 <ul style="list-style-type: none"> 関心・意欲・態度 鑑賞の能力 ・発表 ・ワークシート記述
展 開			

ま と め	<p>◇鑑賞・感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ文様の美しさやよさを味わう。 ・アイヌ文様に込められた思いを考えなら、感想をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌの人々の生活や文様で装飾されたものをDVD教材を用いて鑑賞させる。(衣服や器等) *使用DVD『イランカラプテ』 ・感想をまとめさせる。 ・数名に発表させる。 	<p>鑑賞の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表 ・ワークシートの記述内容
-------------	--	---	--

資料・参考文献等

『世界の伝統文様 CD-ROM素材250』中村重樹 編著

『イランカラプテ こんにちはアイヌ文化』財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

『サッポロピリカコタン』www.welcome.city.sapporo.jp/pirka/

いろいろな文様



・アイウシシリキ
(神の) 棘がついている文様



・エアラモレウシシリキ
一つの、片方が渦巻き状の文様



・アイウシモレウシシリキ
(神の) 棘がある渦巻き状の文



・シツケウヌモレウシシリキ
隅(すみ)、角(かど)が多い渦巻き状の文様



・シクシリキ
眼の文様



・ウタサシリキ
お互いに交差する文様



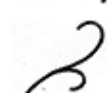
・ウレンモレウシシリキ
両方が渦巻き状の文様



・シクウレンモレウシシリキ
眼が両方にある渦巻き状の文様



・レウエトコシリキ
渦巻き状の先の文様



・ブンカルシリキ
蔓(つる)状の文様



・アバボピラスケシリキ
花の咲く文様



・アバボエイシリキ
花の芽状の文様



ハート形文様



つりがね形文様

『サッポロピリカコタン』ホームページより